

地球に愛を子どもに愛を エコキャップ新聞

第2号 平成28年11月号
発行：NPO法人 エコキャップ推進協会
〒231-0023 横浜市中区山下町252グランベル横浜3F TEL. 045-900-0294(代) FAX. 045-900-0295
E-mail: info@ecocap.or.jp http://www.ecocap.or.jp

- 企業CSR特集
 - ・在宅介護—やさしい手のエコキャップ運動
 - ・(株)ユタカファーマシーのエコキャップ運動とNPO「暖」のエコステーションの連携
- 障がい者就労継続支援施設B型「クローバー」開設!
- 知的障がい者の才能
- エコステーション構想
- 家庭用プリンターのインクカートリッジ回収運動
- 第2のリサイクル運動がスタート

エコステーション構想……混ぜれば「ゴミ」……混ぜれば「ゴミ」……



この運動の原点は、神奈川県高生のリサイクルに対する疑問から始まったお話はご存知だと思います。エコキャップ運動は、ペットボトルはリサイクルできるのに、キャップは焼却されているのはおかしいとの女子高生の研究発表から、それはキャップがリサイクルできるか実証実験をしようということから広がっていきました。

分別をする意義!

この世の中ですべてのものは再利用できます。いろいろなものを混ぜれば「ゴミ」になりますが、家庭や企業から排出される段階で分別すれば、再資源の原材料になっていきます。エコキャップ運動も同じです。送られてくるキャップは必ず誰かが分別する作業をしなければなりません。エコステーション構想では、障がい者や高齢者の雇用創出を、送られてくるキャップの異物除去、シール剥がし、色分別などを行っています。この作業は、高品質な原材料を再



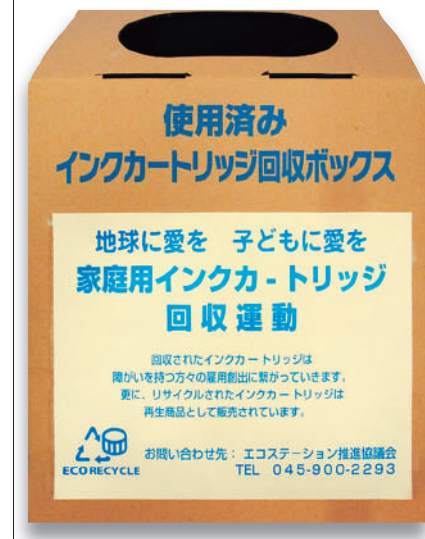
生させるためにもとても重要な工程です。しかしながら、異物の中にはカッターやライター、金属類、さらに注射針など医療廃棄物が混入している場合があります。危険なものを混ぜるといことがないようにしてください。作業員がケガをすることのないようにご配慮ください。また、キャップを簡単に洗ってくださるだけで異臭がでまします。ご協力をよろしくお願いいたします。



家庭用プリンターのインクカートリッジ回収運動 第2のリサイクル運動がスタート

家庭用のインクカートリッジの回収運動にエコステーション推進協議会が提携し、全国的にスタートが始まりました。インクカートリッジもキャップ同様に使用後にゴミとして捨てられていました。このインクカートリッジは、再生商品として安価な価格で販売されていることはご存知だと思います。全国から集まったインクカートリッジは、山梨県南アルプス市の障がい者施設で再生できる物と使用できない物に仕分けされます。使用できる物は、電子チップの交換、インクの再充填をして、パッケージされてアスクルや量販店の商品棚に並び、安価で購入することができます。インクカートリッジの回収運動は、「リユース」に分類されます。使えぬ物を捨ててしまうのはもったいないの思想はこの業界にもあります。現在、エコキャップ運動にご参加いただいている企業・団体・学校等にも家庭用インクカートリッジの回収のご協力をいただいています。これらの仕分け作業も障がい者の雇用創出に繋がっているのです。

再生インクカートリッジの収益の一部は、全国の障がい者施設や障がい者支援運動に寄付されるシステムになっています。この家庭用インクカートリッジの回収ボックスを使用済みのインクカートリッジを入れてください。この趣旨に賛同いただける企業・団体・学校・市民グループの方々に、使用済インクカートリッジ回収ボックスを無料配布していますので、左記問い合わせ先までご連絡ください。▼エコステーション推進協議会 045-9000-2293



企業CSR特集 在宅介護—やさしい手のエコキャップ運動とNPO「暖」のエコステーションの連携

在宅介護—やさしい手のエコキャップ運動



サービスイ付き高齢者向け住宅や在宅サービスなどの事業展開している株式会社やさしい手では、スタッフと利用者の方々と共にエコキャップの回収運動にご協力いただいています。企業CSRとしてエコキャップを回収してくださったっている企業は全国で4万6,000社以上あります。企業CSRという概念は、近年、日本の企業でも定着してきました。この運動に参加される企業の中に

は、キャップを回収してくれる入口企業、処理をしてくれる中間企業、製品化してくれる出口企業の連携がなくては成立しません。毎日、エコキャップの本部には、新規でエコキャップ運動をしたいとの企業・学校等の問い合わせも多々あります。エコキャップの回収は、社員だけで行つては、お客さまや利用者との連携されど大きな輪になります。とご説明させていただいています。

(株)ユタカファーマシーのエコキャップ運動とNPO「暖」のエコステーションの連携

今回ご紹介する、ドラッグユタカのエコキャップ運動は、各店舗でお客様と共にキャップを集めており、回収に伺っております。回収されたキャップは、エコステーション(障がい者施設等)で異物除去(飲料用のペットボトル以外の物やシール剥がし、色分別等の作業を障がい者の方々が行っています。株式会社ユタカファーマシーは岐阜県・滋賀県・京都府を中心に「ドラッグユタカ」「ユタカ調剤薬局」168店舗を展開しており、健康と美

を通してお客様に「こころゆたかな生活を応援すること」を営業理念としていきます。同社は、社会貢献活動の一環として、エコキャップの回収運動をしており、お客様より預かったエコキャップはエコキャップ推進協会に届け、回収を通じて障がい者の雇用の創出やCO₂の削減・再資源化に努めております。

株式会社ユタカファーマシー他、中京地区企業と連携しているエコステーションの1つ、特定非営利活動法人「暖」の原田美津留理事長に活動のお話を伺いました。当法人は平成26年に設立し、障がい児者の預かりである日中一時事業からはじめ、生活支援事業、相談支援事業今年度から児童発達・放課後児童デイサービスと拡大してきました。障がいをもつ子どもたちの就労先で、いかに過ごしやすいか、長く勤めることができるか子ども達も少しでも成

長できるか、接してきました。エコキャップは、回収することからすでに社会と繋がっています。分別、シール剥がしなど、得意とするところをみつけ、やり方を工夫することによって、障がいがある人も参加できる仕事になります。障がい個性や特徴、それをどう活かしていくことが出来るか、これからが課題です。これからも地域の方々のご理解や関係機関との連携を深めて、過ごしやすい、過ごさせやすい場所を作っていきたいと思えます。●特定非営利活動法人「暖」理事長 原田 美津留



知的障がい者の方々に接したことがある方は、「ご存知だ」と思いますが、潜在的な能力の高さや文化芸術面で天才的な才能がある方がいます。私たちは、知的障がい者だけでなく障がいのある方々の積極的な雇用創出、生活訓練を支援していきます。障がいがあることは、決して劣っていることではありません。

つまり障がいのある方々は、それぞれの障がいを補うために、その他の機能でバランスを取っているのです。みなさんの中には「キャップハンディプログラム」に参加いただいた方々もいると思います。視覚障がい者の方々のように目隠しをして、杖で探りながら歩行してみたり、車椅子で歩道を移動して、この段差が怖いなあ...と感じたことと思います。障がいには、いろいろな障害があります。

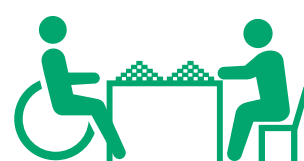
日本の人口比率でいうと15人に1人は障がいがあると言われております。私は中途の腎臓障がい者で歩行障害もあります。

週3回の人工透析を準備から止血まで5時間近くかかりますが、血圧低下や手足の攣りなど苦痛の日々です。恥ずかしい話ですが障がい者になつて、「障がい」があるやうに思っていることではじめてわかりました。健康者だったときに、私は障がい者ボランティアもしましたが、障がい者にならないとわからないこと、また障がいを持たれている家族の方々の精神的な負担が、その当時わかっていなかっただけで反省すること多々あります。

透析患者は障害1級なのですが、はじめはその意味が受け入れられなかつたです。透析終了後、仕事で打ち合わせ移動することも度々です。出張の時は出張先で旅行透析を受けます。透析後の血圧低下と歩行障害で電車に乗つても、肉体的に辛い時もあります。優先席に座つて、見て見ぬふりをする人やスマホを弄つて気が付かないふりをする人の多さに障がい者になつて感じるのです。

私だけでなく、障がいのある方や高齢者の方々に席を譲ることが最近の日本人はしないのですが、外国人の方はスマートに席を譲るのです。そこで私自身が健康者だったときに、スマートに席を譲つたかと振り返ると、私自身も同様だったのではないかと反省するのです。障がいがある方の比率が国民の15人に1人という数字の実態を知ると驚かれると思います。

雇用創出



キャップの異物除去、分別の仕事を障がい者、高齢者に
行なってもらい
雇用創出・自立支援に
繋げています。

人間の脳はわずか10%しか使用されていないという学者もいます。知的障がい者や精神障がい者の方々は、そのほかの脳の活用をするので、驚異的な記憶力がある方や、絵画や書道の世界で天才的な感性を持たれている方もたくさんお会いしました。

「知的障がい者の中には天才児がいる」といって驚かれる方もいますが、私は子育て支援のNPOをしてきたときも知的障がい者の中の優れた才能や文化芸術面で天才的な方々をみてきています。知的障がい者の中には、驚異的な記憶力がある方や、絵画や書道の世界で天才的な感性を持たれている方もたくさんお会いしました。

画や書道が天才的な感性を持たれている方がいます。難しいことを考えて構築するのは苦手でも、1つのことに集中して職人的な作業を得意とする知的障がい者、精神障がい者の方々は意外に多いのです。

障がい者は決して劣っていないわけではありません。

当協会はエコキャップのリサイクルを通じて、知的障がい者の方々に他の障がいを持たれている方々に雇用創出とパーソナルサポートができるシステム構築を推進しています。企業が積極的に障がい者の雇用を考えていただけると、いろいろなスキルをお持ちの障がい者がいるのです。

事務や経理などの仕事は肢体に障がいがある方や内部障がいがある方でもできます。そのためには、障がい者の能力を適正に評価することが大切なのだと思います。

エコキャップ推進協会とエコファクトリー構想をご理解いただいている企業では、障がい者の積極的な雇用を推進しています。運動のミッションの1つである「障がい者・高齢者雇用創出・促進」

は、リサイクルの過程で重要な仕事です。異物除去・シール剥がし・色分別などの仕事は、知的障がい者の方々に向いている仕事内容であり、全国の障がい者施設と連携した「エコステーション・エコファクトリー」の開設が進んでいます。その他、経理や広報誌の編集などの仕事は、肢体不自由者や内部障がいのスタッフの積極的な採用を推進しています。

障がい者に対する理解と潜在能力・才能を企業のみならず方にはご理解いただき、共に障がい者雇用創出にご協力ください。

企業が積極的に障がい者の雇用を考えていただくと、いろいろなスキルをお持ちの障がい者がいるのです。事務や経理などの仕事は肢体に障がいがある方や内部障がいがある方でもできます。そのためには、障がい者の能力を適正に評価することが大切なのだと思います。

エコキャップ推進協会と協力企業では、障がい者の積極的な雇用を推進しています。特定非営利活動法人
エコキャップ推進協会
理事長 矢部 信司

障がい者の才能



障がい者就労継続支援施設B型「クローバー」開設!

キャップのご提供が障がい者の仕事になります。



エコステーション構想のご理解いただく、企業や障がい者施設との連携で、全国に「エコステーション・エコファクトリー」の開設が進んでいます。12月1日(水)に神奈川県横浜市中区山下町に知的障がい者を主体とした、施設を開設する運びになりました。この施設運営は、株式会社スタッフルームが行い、20名の知的障がい者の方々の能力を活かした、キャップの異物除去、シール剥がし、色分別等の作業を行う他、「エコキャップ新聞」の封入作業、発送作業などの仕事を行います。

株式会社スタッフルームの若生社長は「みなさまのご協力で、障がい者

就労継続支援施設B型クローバーの開設ができることに感謝いたします。今後は企業CSRと連携したエコキャップ運動、リサイクル活動に専念していきます。このコメント。

この施設では、地域限定ですが横浜市中区内のキャップを回収するスタッフが即日回収するシステムを若生社長自ら実証実験していくとのこと。回収専用自転車での回収できる量は「コンビニ」の袋程度になります。「45リッター」の袋をいっぱいにするのは時間や保管スペースが大変だ!との問題の声に対応するため、まずはエコキャップ推進協会の本部地域から実証実験をすることに

なりました。今後は地域にネットワーク化した回収システム構築する計画です。一般家庭で「コンビニ」の袋一袋分は、1か月くらい溜まる量といわれています。

横浜市中区から実証実験はスタートしていきますが、今後は横浜市全域に広げていく計画です。障がい者就労継続支援施設B型「クローバー」の活動報告や新たな回収システムについては、随時紙面に報告させていただきます。知的障がい者の方々が行う異物除去、シール剥がし、色分別などの丁寧な作業が再生素材のクオリティを高めていきます。

企業CSR、学校、市民ボランティア

アの方々や障がい者施設(エコステーション)との連携はエコキャップ運動を通じて、地域に大きな輪をつくっていきます。

昨年開設した横浜市大黒頭にあるエコファクトリーは株式会社エコサービスが運営管理しています。この会社は、60歳以上の高齢者の雇用創出している会社で、エコステーションで異物除去、シール剥がし、色分別したキャップを破砕するプラントです。

「高齢者スタッフのチームがキャップ回収に軽トラックでお伺いし、回収したキャップをエコステーションで分別等の作業を経て、破砕するという重要な仕事をさせていただきました。働く高齢者スタッフは、企業を定年退職され人生経験も豊かな方々です。ご訪問先に人気があります。現在、大黒頭のエコファクトリーでは月産20tのキャップ粉砕をしていますが、今後は月産40tまで実施していきたいとの株式会社エコサービスの小林社長のコメントです。今後は、横浜市内の障がい者施設(エコステーション)と連携して、障がい者の施設外就労の受け入れも計画しています。

障がい者の雇用創出、高齢者の雇用創出が着実に実現されています。エコステーション・エコファクトリー構想にご興味がある障がい者施設、企業の方にはエコキャップ推進協会本部までご連絡ください。事業企画書・プロモーションDVDなどの資料をご用意しております。

▼連絡先▲
エコキャップ推進協会
電話 045-9000-0294



DRUG ユタカ



株式会社 ユタカファーマシーは岐阜県・滋賀県・京都府を中心に「ドラッグユタカ」「ユタカ調剤薬局」168店舗を展開しております。